

美しい調和の世を織り成す人

—岡崎嘉平太

三江学院 李婷

中国には、「水を飲むときには井戸を掘った人のことを忘れない」という誰でも知っていることわざがある。しかし、日本人の先生から、「井戸を掘った人」と周恩来総理に誉められた岡崎嘉平太という日本人を知ったのは初めてである。外国人に対して、私は今までこんなに深い親愛感と尊敬の心をもったことがない。さらに、嘉平太さんの人柄と度量、また、中日友好のために努力したことにとても感心した。一人の人がこのように寛容の心で社会のいろいろなことに対処したことについて、私は心から敬服した。

岡崎嘉平太さんは小さいころ父親が亡くなって、母親一人に育てられた。このような家庭で、彼は独立心と強固な性格を養った。嘉平太さんのお母さんの一言が特に印象に残っている。「自分が譲ってまるく収まることは譲りなさい。」この博愛の心に富んでいるお母さんは自分の人生の知恵で嘉平太さんに謙譲、寛容の心の重要性を分からせた。彼はこの調和、寛容の心を大切にしてその後の中日関係の改善や中日交流の促進にも生かした。

学生のころ、中国からの留学生たちの付き合いを通じて、嘉平太さんは中日の関係について深い認識があった。両国の共通の発展、また、両国国民の幸せのために、彼は日本と中国は仲良くしなければいけないと考え、日中友好に努力しようと心に誓った。その上、彼は友達の小陳九さんからももらった書「克己」を自分の人生の戒めとして、いつも自分を厳しく反省した。

大学卒業後、嘉平太さんは日本銀行に就職した。そのうち、日本は中国に戦争をしかけた。そのときの中国はまさに四面楚歌で孤立していた。しかし、中国の庶民の悲惨な生活を見るに忍びなかった彼は、日本人として、戦争問題を避けなかった。かえって学生のころからの志を曲げず、ずっと日中平和と友好に力を尽くした。1945年、戦争が終わって、両国も外交関係を断った。その間、嘉平太さんはたびたび中国を訪れて、「半官半民」貿易を突破口として両国の経済往来と国交の回復を実現するために友好の橋をかけた。実際には、貿易の方面ばかりでなく、その後の数十年間、嘉平太さんはずっとほかのいろいろな分野で心を込めて活躍し、中日の国交回復に導いた。

嘉平太さんが人を傷つける言葉を言ったことは一度もなく、いつも人に細やかな思いやりを示した。彼は自分の真心と実際の行いで、中国の人々からも信頼され尊敬された。周恩来総理は嘉平太さんを「井戸を掘った人」にたとえた。確かに、彼こそ、この中日友好の「枯れ井戸」にもう一度活力を取り戻して、甘い調和の水をよみがえらせた人である。

嘉平太さんが戦後中国を訪れた回数は100回にもものぼった。100という整数は中国で完璧を表す。この数は岡崎嘉平太さんのすばらしい一生を象徴しているようである。彼は中日の国交回復のために全部の精力を傾けた。そして、ついに喜ばしい成果を収めた。まさに、彼の好きな言葉「信はたて糸、愛はよこ糸、織り成せ人の世を美しく」の言葉どおり、嘉平太さんは誠実な人柄と博愛の精神で中日関係の新しい一章を書き記したのだ。そして、自分の輝かしい一生を全うした。私にとって、嘉平太さんは一生敬慕し、見習うに値する師で

ある。彼の行いと精神は私の生き方に深い影響を与えた。物事の処理や人づき合いも嘉平太さんのように真心をもって向き合っていこうと思う。それだけでなく、中日のつながりも相互理解と寛容な態度で調和を促進し、中日の共通の幸せを織り成す美しい世の実現に努力していきたい。